

彩の国 連携力育成プロジェクト ニュースレター

第3号

2014年3月13日発行



【発行】埼玉県立大学／埼玉医科大学／城西大学／日本工業大学

【お問い合わせ先】埼玉県立大学事務局・企画担当 ☎ 048-973-4715／✉ kikaku@spu.ac.jp

「緩和医療学」のIPW演習が城西大学で行われました

平成 26 年 1 月 17 日、城西大学薬学部の学生と、埼玉医科大学の学生が「緩和医療学」の授業に参加し、ペーパーパシエントの事例に対するケアについて真剣にディスカッションを行いました。

「患者さんの希望にどう寄り添おうか?」「ご家族はどんな意見だろう」「これまでの治療経過を見ると……」この日初めて顔を合わせたとは思えないほど、学生たちの間では深い議論が交わされていきます。この日、『緩和医療学』の IPW 演習が行われました。

この授業では、終末期にある患者の事例について、患者本人のみならず家族の現状や希望等を考慮し、どのような『痛みのケア』を提供し、Quality of Life（生活の質）を向上させるかについて、グループで話し合います。

当日は、城西大学薬学部の学生と埼玉医科大学医学部の学生が一堂に会し、事例の患者とその家族に対して、現状と希望を確認しあい、専門家としてどのようなケアを提供すべきであるかについて、活発な議論を行いました。

ディスカッションの後には、複数のグループに話し合った内容を発表してもらい、会場全体で共有する時間をもちました。

参加した学生からは、「他の大学の学生と一緒にこのようなディスカッションに参加するのは初めてで、多くの人の意見を聞き、様々な視点で問題を探ることや、共感する姿勢は大事だと感じた」といった感想が聞かれました。

なお、当日は同じ課題を埼玉医科大学において医学生のみで実施しており、今後、ディスカッション内容等について比較を行い、IPE によってどのような効果がもたらされたかについて検証を行っていく予定です。



参加学生に向けて

城西大学 薬学部
細谷 治 准教授



死を目前にした患者に自分ひとりで何ができるのか。家族の思いを受け止められるのか。「多職種連携」「チーム医療」、緩和ケアには不可欠です。誰もが言葉では分かった気になっていますが、具体的に何をどうすれば……“こたえ”はこの演習にありました。今回の参加学生の言葉から、改めてそれを実感しました。一人でも多くの学生に「連携の力」を体験してもらいたいと思います。“こたえ”は待っていても見つかりません。IPW演習の中にあります。



講演会

「ケア環境の一要素としての空間とその役割」

平成25年11月30日（土）、日本工業大学LCセンターにて、講演会「ケア環境の一要素としての空間とその役割」が行われました。

当日は、講師として東北工業大学建築学科 教授 石井敏先生をお迎えし、空間的・物理的環境がケア環境の一要素として持つ意味と、どのような役割を果たしているのかについて、お話しいただきました。講演会には、4大学の教員、学生の皆さんのみならず、保健医療福祉の現場職員の方などにもご参加いただき、盛会のうちに幕を閉じました。

11月30日（土）、東北工業大学・建築学科教授・石井敏先生をお招きして、「ケア環境の一要素としての空間とその役割」と題する4大学主催の講演会を日本工業大学で開催しました。保健医療福祉分野を中心とするIPEへの工学分野、特に建築分野の参画は彩の国連携力育成プロジェクトが持つ類例のない特徴の1つです。講演会はこの新しい試みの意義を考え、可能性を展望するために企画されました。

4大学の教職員、学生のほか、県内の医療・福祉施設等にお勤めの方々も来場され、石井先生のご講演を通じて、ケアも空間も人の暮らしを支える環境の一部であり、分かちがたいものであるという理解を共有しました。講演会に続き、「彩の国連携力育成プロジェクト」の担当教員を中心とするテーブルディスカッションも実施しました。オーディエンスからも積極的な発言があり、講演内容をふり振り返りながら、IPEに建築分野が加わる意義について意見を交わす貴重な機会となりました。



当日は100人を超える参加者が会場を訪れました。保健医療福祉および建築を専門とする教職員、学生だけでなく、地域の現場職員からも参加がありました。



講演会後は、演者の石井先生、SAIPEの参加大学の教員、保健医療福祉の現場職員によるパネルディスカッションも行われました。

interview

『連携を語る』

瀬戸教授は住居学の専門家であると同時に、社会福祉学の専門家でもあります。1年生の入門科目から4年生の卒業研究、さらに大学院でも福祉と生活環境に関する授業を担当されています。

IPW実習において建築分野の学生の多くは、飛び交う専門外の用語に面食らうようです。瀬戸教授は、「たとえ建築分野の学生であっても、専門用語をまずは学んでほしい」と指摘します。自分たちが持ち合わせていない専門知識の内容にまで踏み込んで仲間に尋ねる力、利用者に関する知識や情報を共有する力を身につけることで、具体的に技術的側面に裏付けられた生活をサポートする空間を提案できるという『理想』が描けてくると瀬戸教授は語ります。

日本工業大学 工学部 生活環境デザイン学科

瀬戸 真弓 教授

「これからの時代は、知恵を出し合って情報を共有し、集団で問題解決をしていかなければならないほど、世の中は多様化、複雑化していますが、その始まりを見たように思いました。将来、実社会においても、学生さんたちにはこの連携教育での経験を活かして、それぞれの専門領域で仕事を発展させていって欲しいと願っています」



瀬戸教授の研究室の本棚には、「住居」「心理学」「身体活動」など幅広い分野の書籍が。

共同研究・共同開講に向けた

ワークショップ開催

この日、会場のラフレさいたまに集まったのは、4大学の教職員および学生、総勢52名。専門分野も、医学、薬学、理学療法学、社会福祉学、建築学など実に様々です。第2回目となるワークショップでは、「連携科目の開発・開講、学生の共同研究実施の可能性を探る」ことを目的として、参加者同士の対話からアイデアを出し合う活動を行いました。

前回のワークショップの課題をふまえ、今回は最初に『彩の国連携力育成プロジェクトの活動紹介』を行い、さらに対話を共有するしくみをもつワールドカフェという方式で話し合いを行いました。

「自分が経験してきた教育の特徴」「今でも4大学で工夫すればできそうなことはどんなことか」「4大学が連携することによってできるようになったらいいと思うこと」という3つの問いに関する対話を通して、「お互いの大学や授業の見学会をしたい」「日本工業大学の学生にネズミの解剖をみてもらいたい!」「大学教員を交換してみたい」といったたくさんのアイデアが会場中で共有されました。

今後は、今回得られたアイデアをどのように事業に盛り込むかについて、引き続き検討してまいります。



当日は埼玉県立大学・田口准教授によるSAIPEの活動紹介も行われました。



参加者は、共同研究・共同開講授業に向けた「問い」に集中し、対話を楽しみました。

ワークショップを終えて

埼玉医科大学

米岡 裕美 講師



共同開講の可能性を探るほか、参加者の皆様に本事業を知っていただく、お互いを知りあうという効果があったと感じます。今回出た様々なアイデアやニーズを踏まえ、共同開講にむけて具体的に検討していければと思います。

学生共同
学習チーム
sa・i・fu

霞ヶ関南病院を見学してきました

平成25年12月14日(土)、学生共同学習チームのsa・i・fuメンバーが、埼玉県川越市にある霞ヶ関南病院を見学しました。

今回の見学は、去る11月30日(土)に行われた講演会「ケア環境の一要素としての空間とその役割」の内容を受け、利用者の日常生活を重視したケア環境づくりの実例を学ぶために行われたものです。

見学後は、利用者のケアのために有効な空間づくりなどについて話し合い、見学内容を深め合いました。



当日は、霞ヶ関南病院に加え、併設された介護老人保健施設「真寿園」、グループホーム「アダースあいな」も見学しました。

イギリス・コベントリー大学とWEBによるIPE交流を実施

2014年1月22日から2月12日まで、学生4名（埼玉県立大学から2名、城西大学から1名、埼玉医科大学から1名）がイギリスのコベントリー大学によるオンラインIPEに参加しました。

オンラインIPEではアルコール依存症の事例が挙げられ、事例を紹介する映像や関連文献等の紹介が備えられています。学生は最初の1週間で事例に関する資料を確認、必要と思われる専門的知識を収集しておき、その後の期間にあらかじめ決められた少人数グループのメンバーと、インターネット上の専用掲示板の上で意見を交わしました。

このIPEでは、資料はもちろん、ディスカッションもすべて英語で行われるため、参加学生からの感想の中では『英語によるIPEについて相談できる教員の必要性』が指摘されましたが、「また次回にも参加したい」という積極的な姿勢もみられました。

今回の参加学生から得られた感想や意見等をもとに、次回以降は4大学の学生により参加しやすい時期や環境を提供できるよう、コベントリー大学の担当教員とも検討し、参加学生が活発に交流できるように調整する予定です。

埼玉県立大学にマイルストーンが設置されました

平成25年11月4日、地域の皆様の健康増進にもお役立ていただけるマイルストーン（道標）を埼玉県立大学の敷地外縁部に設置し、除幕式を行いました。

当日は、彩の国連携力育成プロジェクト参加大学の関係者に加え、地域の代表として大袋地区自治会連合会の川島秀男会長にも除幕者としてご参加いただきました。

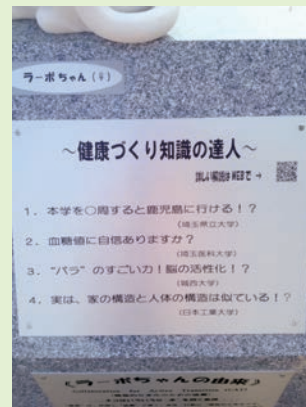
埼玉県立大学の外縁部には、写真のマイルストーンのほか、マイルストーンから50m、100m、中間点の位置にも、道標が設置されています。



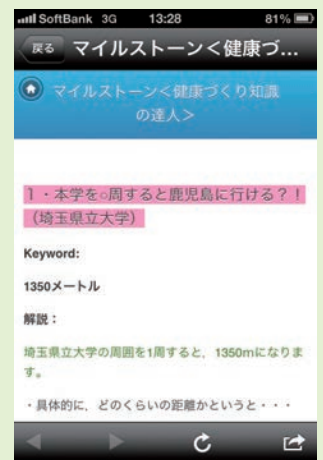
“ラーボちゃん”と「健康づくり知識の達人」

マイルストーンの上にいるのは、猫の“ラーボちゃん”。由来は“Collaboration for Active Transition”（積極的な変化のための協働）の頭文字CATであり、猫は様々な“幸”を招く象徴として選ばれました。

アルミ板には、4大学の教職員による健康情報「健康づくり知識の達人」が紹介されています。この情報は、定期的に更新される予定です。



マイルストーンにあるQRコードを読み込むと……



「健康づくり知識の達人」で紹介されている健康情報の詳細をご覧ください。

大学間連携共同教育推進事業選定取組全国シンポジウムに参加しました

平成26年2月18日、一橋講堂（東京都）にて、大学間連携共同教育推進事業選定取組全国シンポジウムが行われました。このシンポジウムは、大学間連携事業に選定された大学が一堂に会し、パネルディスカッションおよびポスター発表を通して、事業間の情報交換を行い、また本事業の理解を深めるためのものです。

彩の国連携力育成プロジェクトからは、埼玉県立大学の 新井利民講師が参加し活動紹介を行いました。

川崎医療福祉大学の先生方にご視察いただきました

2014年2月3日、川崎医療福祉大学の先生方が埼玉県立大学を訪れ、SAIPEの取り組みを視察されました。

本事業をご紹介します、今後のIPEの課題と展望について話しあいました。



公式ホームページ、Twitter、Facebookで情報配信中!

WEB <http://saipe.jp>  @saipe00
 <http://www.facebook.com/saipe.jp>

編集担当より

早いもので、彩の国連携力育成プロジェクトも次年度で3年目を迎えます。IPW実習の試行事業をはじめ、多彩な活動に取り組めるのは、保健医療福祉の現場の皆様や、その他多くの方々にご支援をいただいているからこそです。改めてここに篤く御礼申し上げます。

本取り組みに参加した学生のリフレクションシートからは、専門職連携教育という普段の大学の授業だけではなかなか体験できない“新たな学び”に良い刺激を受けている様子がうかがわれます。今後も、質の高い専門職連携のできる人材育成を通して埼玉県の保健医療福祉に貢献すべく、幅広く共同事業に取り組んでまいりたいと思います。